

事業概要表（草の根協力支援型）

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	バングラデシュ人民共和国
2. 事業名	パイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	<p>バングラデシュでは、井戸水（地下水）の砒素汚染や海水進入に伴う塩性化、表留水の細菌汚染が深刻であり、特に乾季の飲料水確保が難しい。パイガサ地域にあるパーバヤージャパ村は、PSF（砂濾過装置）もなく、支援から完全に孤立している。住民はため池、井戸水、雨水を利用しているが、ため池には塩分や大腸菌、井戸水には塩分、砒素、鉄が混入しており、雨水の保存方法は不衛生で、有害な水の飲用を余儀なくされている。同村では、特にエビ養殖の影響による塩害が深刻だが、PSF では塩分を取り除くことはできない。また、井戸は離れた場所に1基あるだけで、水汲み自体が過酷である。</p> <p>申請者らは、現地で入手可能な材料で、住民が簡単に作製できる「太陽熱淡水化装置(TSS)」を開発した（低コスト：1基250円未満）。2013年より、パーバヤージャパ村で試験設置（60基）を進め、住民と共に安全な水を作ることに成功した。その結果住民はTSSの効果を認め、利用に積極的で、TSSを通じた水環境改善を熱望している。</p> <p>本事業の目的は、「住民がTSSを製作し管理する技術支援」と「保健衛生教育」を2本柱として、支援に取り残された地域で、水・保健環境の改善モデルを確立することにある。現地材料を活用し、コストを抑え、住民負担（労力や原材料の提供）と住民による自主管理により、事業の継続性を確保する。終了後は、確立されたモデルを、厳しい水環境に直面する周辺集落に導入し、生活環境向上に貢献することを目指す。</p>
4. プロジェクト目標	パーバヤージャパ村にて、住民主体によるTSSを利用した水環境および保健環境改善モデルを確立する。
5. 対象地域	バングラデシュ人民共和国、クルナ管区、パイガサ地域、パーバヤージャパ村
6. 受益者層（ターゲットグループ）	<ul style="list-style-type: none"> ・直接受益者：試験導入実績があるパーバヤージャパ村の住民約1,000名 ・間接受益者：今後TSSによる水環境モデルを導入する周辺村落の住民
7. 期待されるアウトプット及び活動	<p>【アウトプット】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. TSSが乾季の主たる飲用水獲得手段となり、住民が適切にTSSを利用する 2. 住民が雨季に適切に雨水利用する。 3. 住民が衛生習慣に対する行動を変容する 4. 住民の健康状態がプロジェクト実施前より改善される <p>【活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. パーバヤージャパ村に適したTSSを設計する。 1-2. 住民にTSSに関する説明会・講習会等を開催する。 1-3. 住民がTSSを組み立て、家庭に設置し、維持管理をしながら利用する。 1-4. TSSの維持管理と衛生・保健教育のためのファシリテーターを養成する。 1-5. TSS使用状況をファシリテーターが定期モニタリングし、維持管理を継続する。 2-1. 住民に水の衛生的保管・利用方法を中心とした水に関する講習会を開催する。 2-2. 住民が、衛生的に雨水を貯留・保存して適宜煮沸して利用する。 3-1. 住民に健康な生活を送るため必要な生活環境・習慣に関する講習会を開催する。 3-2. 住民が用便前後や食前の手洗い習慣、ため池水の使い分けなどをする。 4-1. プロジェクト期間を通じて、生活習慣や健康状態をモニタリングする。
8. 実施期間	2016年7月～2022年2月（5年7ヶ月）（注：1年間の中断有）
9. 事業費概算額	24,998千円
10. 事業の実施体制	<p>【事業実施・支援体制】プロジェクトマネージャー（1名）、TSS及び水に関する業務（2名）、保健衛生教育に関する業務（3名）、水管理指導（2名）、業務補助（学生1名）</p> <p>【相手国実施機関との協力体制】</p> <p>カウンターパート：現地NGO・AOSED、協力機関：クルナ工科大学</p>
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	国立大学法人 福井大学地域環境研究教育センター
2. 活動内容	福井大学地域環境研究教育センターは、地域、社会、環境に関する問題を研究し、教育する組織である。取り組みによって得られた優れた防災能力を発揮して、安全で快適な社会環境を構築することである。